
バカとテストと幼なじみ？

げーま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと幼なじみ？

【NZコード】

N3258BA

【作者名】

げーま

【あらすじ】

超きまぐれな川相蒼馬は明久と幼なじみ？だがバカにあきれてほとんど話さない。Aクラスに試験戦争を仕掛けることによつてどう関わっていくのか！

プロローグ

桜が舞っている。今日は文月学園に入学して2回目の春だ。この学校はとても面白い。試験召喚システムといって科学とオカルトによって開発されたらしい。

AからFクラスまでありAが優秀でFがバカといったところだ。のんびり桜を見ながら行くとなんともドスのきいた声で

「おはよっ。川相。」

と生徒指導の西村先生が言った。

「おはようございます。西村先生。朝からご苦労さまです。」

「そう言つてお前もかなり早い時間だがな。」

「なんか早く起きてしましたから。」

「そうか。ほら、受け取れクラスが書いてある。」

「ほーい。」

「今だから言つが・・・。」

川相 蒼馬 Aクラス

「眞面目に振り分け試験を受けるとは思わなかつた。」

「・・・ひどいですね。」

「もう愚つのも仕方ないだろ。わざと他のクラスを狙つ」とを
ほのめかすようなことを言つてたからな。だが本当に眞面目にやる
つもりはなかつたのだろ。」

「ええ・・・最初の方はそんなに点を取る氣無かつたんですけど、実際にテスト受けてたら後半ぐらこから調子に乗つてどんどん
解いてしまつたから。」

「普段から調子に乗つてくれればいいのだが・・・」

「それは無理ですよ。」

「まあ、もうだらな。」

「それじゃ、俺もう教室行きますね。」

設定

川相 蒼馬

2 - A 所属

とこどん気まぐれな性格。明久と幼なじみだがバカにあきれてほとんど話さない。一年の時、西村先生の手伝いをして他の先生からも觀察処分者よりもいい。と言われている。両親が他界しており親戚に引き取られたが、今は仕送りと少しのバイトで生計を立てている。

久保利光とは一年から知り合い。

得意教科・・・科学、古典
苦手教科・・・世界史、保健体育

中野 龍介

2 - A 所属

熱血な所がある。蒼馬の中学校の時からの親友。水泳部に所属しており、工藤愛子とは仲が良い。

友達想いで、人気もある。

得意科目・・・保健体育、物理

苦手科目・・・文系全般

第一話

△クラスの教室に着いた。高級ホテル（実際に入ったことはないが）のような感じだ。

少しづつ生徒が増え始める時間だ。すると誰かが声をかけてきた。去年同じクラスで仲が良くなつた『久保利光』だった。

「やあ、川相君。君も△クラスだつたんだね。」

「まあ、やる気はなかつたんだけど途中から熱中してしまつて・。」

「君が他のクラスについて、このクラスに戦争を仕掛けられたらとてもじゃないけどかなわないと思つよ。」

「買いかぶりすぎだろ。」

「そんなことは無いと思つよ。でも一緒にクラスになつたんだ。一年間よろしく頼むよ。」

「ああ、そんじゃまた後で。」

その後ぼーっとしていたらあいつが熱血さを含んだ声で俺を呼んだ。

「あいつ」とは、小学生ぐらいから一緒にクラスになることがほとんどで仲良くなつた『中野龍介』だ。

俺は熱血ではないが何故か気があった。

「よう、蒼馬。お前がAクラスだとはな。」

「どういう意味だ。」

「お前の」とだから、わざと落として他のクラスにこいつをしただね。」「

• • • •

「凶星だな。」

「いいのはかなり鋭い。ポーカーフェイスを保つようにしてはいるのだが、やはり長いつきあいなので表情でなく経験談から読んでくるから嘘はなかなか通すことが出来ない。

「まあ、結果的に同じクラスになつたんだから、一年間またバカやつてこいやがー。」

「バカはやらないぞ。」

「もういいなつて。じゃ、チャイム鳴るからあとでな。」

龍介が戻つてから2・3分でチャイムが鳴つたので寝ようかなと、思いつつも担任の話を聞いていた。

「皆さん進級おめでとうございます。私は二年Aクラスの担任、
高橋洋子です。よろしくお願ひします。」

見た目は知的女性の代表みたいな感じだ。

話しを軽く聞いていると、

「クラス代表を紹介します。霧島翔子さん。前に来てください。」

「・・・はい。」

彼女は物静かな雰囲気を持つていた。そしてクラス全員の視線が集まる。

「クラス代表」 = 「学年主席」ということだ。注目を浴びるのは当然だ。

「・・・霧島翔子です。よろしくお願ひします。」

彼女は一年の時から有名であり、男子生徒からの告白が絶えなかつた。しかし、一人も心を動かすことはなかった。そのことから、彼女は同性愛者ではないのかという噂が流れたが、俺はあまり信じてない。

そんなことを考えていると、

「Aクラスの皆さん。これから一年間、霧島さんを代表にして協力し合い、研鑽を重ねてください。これから始まる『戦争』で、どこにも負けないように。」

高橋先生の結びの言葉が叫びられ、霧島さんが会釈をして席に戻る。

(最初の試召戦争はどうがするかなあ)

そんなことを思いながらぼーっとする。

第一話（後書き）

はつきりいって自分ではなかなかいい文が書けないと 思います。
アドバイスなど是非よろしくお願いします。

第一話

ぱーっとしてこると龍介が少し慌ててこひちに来た。

「おいー蒼馬。ニユースだぜ。なんとFクラスがDクラスに試召戦争を仕掛け来やがつた。」

「初日からか・・・。でもEじゃなくてDつてことはよつぱり勝つ自信があるんだろうな。」

「うー。俺も試召戦争してー。」

「めんどくさいだわい。補充試験とか特にやりたくない。」

「でも、点数補充しないと鬼の補習だぜ。」

「まだその方が俺はマシだよ。」

「テストより補習の方がいいなんて変わってるな。俺は補習絶対イヤだぜ。」

すると一人の女子が話しに入ってきた。

「テストより補習が良いってかわってるね。」

話しに入ってきたのは『工藤愛子』だ。一年の終わり頃に転入してきたりしい。

「まあ、こいつが変わっているのは分かっているのは話なんだがな。」

「でも、補習がいってこののは特に変わっこないと思うよ。ボクは補習はイヤだな。」

「俺は、変わって良いんだよ。」

「それより、FがDに仕掛けたのは気になるよな。」

「そうだね。Eに仕掛けたんだから自信があるのかもね。」

「勝つ自信があるってことは、何らかの理由でFクラスになったんだろう。ここが巻き込まれなければどうでもいいよ。」

「蒼馬、もつと興味持てよ。」

ちなみに上藤と知り合いなのは龍介が水泳部なのでそこで知り合って、俺とも知り合つたてところだ。

「暇だし見に行つてみようかな。」

「なに言つてんだ蒼馬。戦争中は戦争だ。」

「自殺だから、試合戦争の見学とこいつ自殺だ。」

「それはずちよつとムリがあるんじゃないかな・・・。」

「ま、仕方ないか。」

そこで解散し、それぞれの席に戻り自殺する」とした。

ああ見えて龍介はちゃんと勉強するから、文武両道つてところだ。
ちなみに俺は帰宅部だ。時々西村先生の手伝いをしているが。

しばらくして昼休みになり、龍介が

「飯どーいで食つ。」

「教室でいいだろ。」

「お前、今日購買か。」

「ああ、そうだ久保。一緒に買いに行つぜ。」

「ああ、『』一緒に食べて貰つよ。」

「んじゃ、先に食べ始めとこてくれ。」

「ああ、じやー藤。一緒に食おうか。」

「いじよー。」

購買に向かつていると、

「あれ、明久がいるつーことは『クラスだな。』

「明久って、観察処分者の吉井君だよね。」

「ああ、最近は話してないけど、幼なじみだからな。ん?あれつ

て姫路瑞希じやないか?」

「姫路さんというと、次席候補の一人だよね。Aクラスにいないと思つたらFクラスだったのか。」

「いれだろ、EじゃなくてDに仕掛けた訳は。」

「そりだらうね。」

「これだと、Aも少し危ないかもな。」

「どうしてだい。」

「あの赤いたてがみのヤツは坂本雄一」といつて悪鬼刹羅といつて結構有名な不良だが、『神童』と呼ばれていたんだ。元神童とはいえ油断は出来ない。」

「なるほどね。」

「ま、さつさとパン買って戻るか。」

「そうだね。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3258ba/>

バカとテストと幼なじみ？

2012年1月10日19時55分発行